



第67号
発行
釧路湖陵同窓会
くまざさ編集委員会
発行日
平成27年8月8日
印刷所
藤田印刷(株)

国公立大に1110名

平成26年度進学結果

平成26年度卒業生(平成27年3月卒業生)は、最後まで粘り強く勉強する生徒が多く、合計1110名の現役国公立大学合格者が出ました。国公立大学現役合格率は、46・2%、1学級あたりの現役国公立大学合格者数の平均は、18・3名と、がんばりが見られました。

数字もさることながら、進学先でも、東京大学理科I類に1名、京都大学の理学部に1名、難関である、国公立大学の薬学部3名(千葉大・金沢大・徳島大)、医学科よりも難関の北海道大学獣医学部に1名、旭川医科大学医学部に1名など、現役生の健闘がみられました。

また、私大入試でもがんばりが見られ、早稲田大学にのべ4名、上智大学に1名が現役合格しました。

昨今、新聞等で報道されております通り、大学入試センター試験は、現在の中学2年生が大学受験の時を最後に廃止され、現在の中学1年生が大学入試を迎える年から新しい、大学入試センター試験に代わる入試がスタートする予定です。中央教育審議会等から出ている答申等によると、単なる知識等の暗記だけでなく、思考力や判断力をも必要とする問題を中心に出題する方向だそうです。ご承知の通り、本校は、SSH(スーパー・

サイエンス・ハイスクール)の指定を受けており、すでに自ら課題等を見つけ、探究していく授業実践にも取り組んでおります。この流れは、新しい入試改革にも対応できる動きだと言えます。

昨今の大学入試問題は、かなり、一問一答的に解ける問題は少なく、さまざまな事象を組み合わせた、自分でじっくり考えたりする必要のある問題が増えていきます。特に難関大と言われる大学の問題は、かなりよく練られており、大学側も本場に「力」のある生徒を求めているのだと感じます。その流れは、入試改革を通してさらに加速するものと考えています。

湖陵生には、高校卒業後にも「伸びる」人材として、各方面で活躍されている同窓生の方々に続いてほしいと考えています。

釧路湖陵高校進路指導部

67期生(平成27年3月卒業)国公立大学現役合格者数

大学	学部	大学別合計
旭川医科大	医学	3
小樽商科大	看護	3
帯広畜産大	畜産	2
北見工大	工業	6
北海道大	総合文	9
	文	
	総合理	
北海道教育大学	水産	15
	看護	
	獣医	
	札幌旭川	
室蘭工大	工学	4
釧路公立大	経済	9
札幌医大	保健医療	1
札幌市立大	看護	1
名寄市立大	栄養	4
ほこだて未来大	看護	2
	システム	
弘前大	人文	10
	教育	
	理工	
岩手大	農学生命	3
	工学	
東北大	農理	2
秋田大	工業	1
秋田公立美大	医	4
山形大	人文	4
	理	
宇都宮大	教育	5
	工	
群馬県立女子大	文	1
高崎経大	経済	2
埼玉大	教育	5
千葉大	工	1
千葉保健医療大	薬	1
東京大	健康科学	1
東京海洋大	理科I	1
東京学芸大	海洋科学	1
横浜市立大	教育	1
長岡造形大	国際総合	2
富山大	造形	1
金沢大	工	1
都留文科大	薬	1
静岡大	文	1
愛知県立大	工	1
三重大	外国語	1
京都大	生物資源	1
岡山県立大	理	1
徳島大	デザイン	1
合計	薬	1
		110

推薦・AO合格者4/前期合格者74/後期合格者32

目次	親子三代釧中・湖陵百年紀(中江さん) 2頁	活躍する同窓生・健老会が解散……………6頁
	40回迎えた器楽部定期演奏会……………3頁	学園だより・SSH発表会……………7頁
	各地湖陵会……………4・5頁	当番期だより・学校祭・編集後記……………8頁
	湖陵17期卒業50年記念同期会……………5頁	

湖陵同窓会HP <http://kushiro-koryo.sakura.ne.jp/>

親子三代 釧中・湖陵百年紀

中江紀洋さんのりひろ（湖陵15期・彫刻家）

一木さんかずき（湖陵45期）・李帆さんりほ（1年在学中）

紀洋さんの父、 孝司さんも釧中卒

釧路市在住の彫刻家、中江紀洋さん。富士見町に住んでいましたので、「近いから当然湖陵に行くものだと思っていました」と言います。紀洋さんの父、孝司さんは釧中16期。1932（昭和7）年、4人の教諭が解雇されたことに抗議し、夏休み明けてから当時の4、5年生が厳島神社社務所に立てこもり、半年にわたり自習に励みました。その当事者の1人が孝司さんでした。

「あまり勉強した記憶がありません」と当時を振り返っていますが、忘れられないのは湖陵祭での行灯行列と演劇発表です。1962（昭和37）年、湖陵祭のテーマは「改革」、行灯行列は「平和の戦車」を紀洋さんが陣頭指揮をとり製作しました。大砲から火花が飛び出る仕掛けは、周囲の度肝を抜いたようで、見事に優勝しました。演劇は、「体育館の隅々までセリフが聞こえるように」と録



李帆さん、紀洋さん、一木さん（左から）

音機を使い、迫力ある舞台上に仕上がりました。当時から芸術の才能をいかんなく発揮したようです。

プールは使わない

現在、学校法人緑ヶ岡学園に勤務している一木さんが入学した年

は、富士見校舎最後の年。「ハトが体育館を飛び回り、体育などで使う場合はまず掃除をしてからでした」と笑います。半年後、現在の緑ヶ岡校舎に移転しました。水泳が得意だった一木さんは、校内にプールがあることを喜び、仲

間とともに同好会結成の願いを学校側にしました。しかし、返ってきた答えは「プールを使うことはありません」でした。また、1991（平成3）年、一木さんが2年生の時、湖陵祭の一大イベント、行灯行列が、諸事情のため

めパレードができず、学校前に展示しただけでした。その後、生徒会の働き掛けで翌年から復活しました。

李帆さんは今年、湖陵高校に入学しました。進路は迷いがありましたが、紀洋さんの「精一杯、挑戦してみては」という言葉をはじめ、家族の後押しがあり、湖陵高校を受験しました。小学生時代ではバトントワラーで活躍していた李帆さんは現在、チアリーダー局に所属しています。チアリーダー局は、野球をはじめとする応援、そして同窓会には必ずステージで披露しています。

そんな李帆さんに紀洋さんは「高校時代の思い出はいつまでも残ります。高校生活を楽しんでほしいですね」と話していました。

星 匠（湖陵30期）

※親子三代の同窓生（生徒）をご存知の方は、くまざさ編集委員会事務局まで連絡をお願いします。

北海道釧路湖陵高等学校器楽部 40回を迎えた定期演奏会



40回目の定期演奏会

器楽部の第40回定期演奏会が、6月13日に釧路市民文化会館で開かれ、会場には1000人を超える観客が詰めかけ、節目の年の演奏会を楽しみました。
須貝喜治(湖陵49期)

演奏の場を提供したい

定期演奏会の始まりは、純粹に後輩を思う先輩の心遣いでした。「現役生徒のために演奏の場を提供したい」。そんな熱い思いを持った器楽部OBやOGの有志が集まりました。しかし、演奏の場を提供するのは簡単なことではなく、生徒会との折衝や、学校側との意見の食い違いなど多くの苦労があったといいます。

そこで秘策を使いました。OB・OG演奏会に、「賛助」という形で現役生徒に演奏の場を提供しました。これが40年間続く第1回目で、定期演奏会の原型となりました。当初は「賛助」という形でスタートしましたが、年月を経っていくうちに、中身はほぼ現役生の演奏会となっていくき、

2003年ついにOB・OG演奏会という名前が無くなり、晴れて器楽部定期演奏会となりました。有志の中心となったのは、今年度に定年を迎える器楽部顧問の澁谷倫之先生(湖陵26期)。当時の思いを生徒が引き継ぎ、湖陵高校の伝統行事としてすっきり定着しています。

演奏会を終えて

器楽部45人の部員が、1年をかけて準備をしてきた集大成が、6月13日の定期演奏会。特に今年は40回目という記念の年。遠藤玲於奈(3年)部長と岩間叶実(同)定期演奏会実行委員長に観客を魅了した定期演奏会を振り返ってもらいました。

部員が作り上げた定期演奏会

○遠藤玲於奈・部長

1000人を超えるお客さんに足を運んでもらうことも嬉しかったです。特に演奏終了後、お客さんの笑顔を見ることができ、本当によかったです。これまでの苦労が報われたと思います。40回目の公演で目指したのは「より楽しいステージにした」「お客さんの視点に立ちたい」という2点でした。音楽に馴染みのない方々でも、目で見て楽しめるステージを理想として、全て自分たちで作っていました。楽器を使わない2部と演劇とダンスも取り入れた3部の演出や構成も全部自分たちで考えました。定期演奏会は3部構成が多いのですが、最近では1部の演奏よりも、2部や3部を目当てに来てくれる程になりました(笑)。ぜひ来年も見に来てください。

澁谷先生のため絶対成功を

○岩間叶実・実行委員長

実行委員長の役割は、調整、統括、部員のケア、トラブル処理など様々な方面に渡ります。それに節目の定期演奏会というプレッシャーもありましたが、それよりも澁谷先生が、今回で最後の演奏会となるので「絶対に成功させたい」という気持ちが大きかったです。定期演奏会の直前は、精神的にも肉体的にもキツかったです。特に本番前日に定期テストがありましたので、一週間練習できずに不安でした。でも、開演直前に円陣を組んでスローガンの「届け！KORYO！」と声を掛け合ったことで、みんな吹っ切れたのでしよう。来年から新しい顧問のもと、新しいメンバーで湖陵の器楽部らしさを残しつつ、新しいことにもチャレンジして欲しいです。



遠藤部長(左)と岩間実行委員長

各地湖陵会

関西湖陵会

関西湖陵会総会は、5月23日(土)に開催されました。今年は開催日を4月から5月に、会場を大阪弥生会館から大阪東急REIホテルに変更しましたが、日程の関係で参加出来なかった方の参加もあり、出席者が増え総勢30名になりました。関西在住の同窓生に加えて、釧路、札幌、東京からの参加者も加えて、広く交流、親睦を深めました。



関西湖陵会に参加した同窓生



学校図書館賞を受賞した長谷川さん

釧路湖陵同窓会からは、島本幸一会長(湖陵19期)、白崎義章副会長(同28期)、青木一晃幹事長(同27期)、札幌湖陵会からは稲村尊史会長(同26期)、伊藤拓摩顧問(同21期)、東京湖陵会からは正札喜久雄会長(同21期)に参加いただきました。

総会は物故会員への黙祷で始まり、校歌斉唱を行い、小川清至関西湖陵会会長(同17期)の挨拶でスタートを切り、来賓の島本釧路湖陵同窓会会長、稲村札幌湖陵会会長、正札東京湖陵会会長が祝辞を述べました。

懇親会は前会長の西田 暉至(同7期)さんの挨拶と乾杯でスタートしました。懇親会の食事はバイキング形式でなく、各テーブル

東京湖陵会

ブルに食事か配膳される形で、おいしい料理だったと好評でほっとしました。特に催し物はありませんでしたが、高級ウィスキー、日本酒の差し入れがありました。最後は応援歌を斉唱して締めとなりました。

二次会は同じホテル内のレストランにて有志参加でアルコールを追加し、エネルギーが補給されました。三次会は小川会長行きつけの宗右衛門町のスナックでカラオケとお酒で盛り上がり終了お開きとなりました。

来年は5月21日(土)に大阪東急REIホテルでの開催を予定しております。ご参加をよろしく願っています。

○：医学、看護などの医療系分野を専門とする出版社、株式会社メディカ出版の代表取締役・長谷川素美さん(湖陵21期)から、自社出版の絵本「ひとりぼっちのオルガン」(文・塩谷直哉、絵・イタクラヨウイチ)が参加者全員に配布されました。メディカARをインストールすると指定ページから讚美歌を聞くことができます。

また、先日 医療・看護領域の教材等で業績を評価され学校図書館の日記で「第45回学校図書館賞」を受賞されました。釧路湖陵高等学校の同窓生の方が各分野で活躍されることは、大変嬉しいことです。

林 正樹(湖陵18期)



そろいの法被を着て応援歌を合唱

東京湖陵会(正札喜久雄会長・湖陵21期)の第26回総会が6月27日、東京都内の青山ダイヤモンドホールで開かれ、約160人の同窓生が参加しました。

正札会長の挨拶に続き、蝦名大也

釧路市長(同29期)、釧路湖陵高校の宮下祐司校長、釧路湖陵同窓会の島本幸一会長(湖陵19期)が祝辞を述べ、総会議事となりました。

懇親会では、お楽しみ抽選会の後、最後は正札会長や来賓の皆さんがそろいの法被を着て応援歌を合唱するなど、楽しい時間を過ごしました。



今年の当番期は湖陵38期、ごくろうさまでした

星 匠(湖陵30期)

札幌湖陵会

第29回札幌湖陵会(稲村尊史会長・湖陵26期)が7月4日にホテルロイトン札幌で開かれました。

物故会員に黙とうをしたあと、校歌を斉



参加した同窓生全員で校歌斉唱

唱。稲村会長は「釧路に思いを持った同窓生が集まりました。青春時代にタイムスリップして思い出を語り、親睦を深めてください」とあいさつしました。このあと、釧路湖陵同窓会の島本幸一会長(同19期)が「本部の同窓会は8月8日で港まつり期間中です。ぜひお越しください」、東京湖陵会の正札喜久雄会長(同21期)は「東京も札幌に負けないように頑張ります」と祝辞を寄せました。また、釧路湖陵同窓会の青木一晃幹事長からは、夏の甲子園大会釧路支部予選で、7月2日の釧路工業高校戦で惜敗したことが報告されました。

この日は帯広柏葉高校の同窓会も隣の会場で開催されていて、「出席者は柏葉さんには負けたくない」と稲村会長以下、役員のみなさんが努力し、柏葉高校よりも多い260人が参加しました。

懇親会の司会は、前湖陵高校の副校長の間義浩さん(同33期)が務め、関西湖陵会の小川清至会長(同17期)の乾杯の音頭で始まりました。湖陵クイズや抽選会などが行われ、最後には来年の幹事期、湖陵32、33、34期が紹介され、応援歌を合唱、釧路湖陵同窓会の濱谷宏隆副会長の万歳三唱で終了しました。

星 匠(湖陵30期)

卒業50年記念 17期同期会

湖陵17期(1965(昭和40)年卒)の卒業50年を記念した東京同期会が、5月24日に東京都内の音楽ビヤブラザライオン銀座店で開かれました。津軽海峡以南在住者を中心に参加を呼び掛け、釧路、札幌からの各1名、仙台、神戸、大阪、富山など遠方からの参加者を含め、全クラスから合計64名が参加しました。

懇親会ではD組の原田利一さんが作成したDVDに合わせて、校歌や応援歌を久々に唄い、また、同期の元釧路市長・綿貫健輔さんの撮りためたビデオレターも紹介され、会場は盛り上がりました。終了後は各クラス毎に2次会、3次会に流れ、高校時代の思い出話を花を咲かせました。

なお、50年を記念した17期同期会は、釧路でも今年10月9日に開催予定です。

星 匠(湖陵30期)

同期会の写真を 募集しています

くまざさ編集委員会では、湖陵同窓会機関紙「くまざさ」に掲載する同期会、クラブや同好会のOB会などの写真を募集しています。デジカメラや携帯電話、スマートフォンで撮影した画像、またはプリントでもかまいません。デジカメラなどで撮影した画像は、できるだけ大きなサイズで撮影してください。画像やプリントのほか、開催の年月日や場所、簡単な内容、問い合わせ先も書き添えていただければ幸いです、送り先、問い合わせ先は下記の通りです。

◆封書の送り先

〒085-0014 釧路市末広町2-4
栄屋旅館内 くまざさ編集委員会

◆画像の送り先および問い合わせ先

メール: rintetsu_hoshi@yahoo.co.jp
携帯電話: 090-1640-2667
くまざさ編集委員会 星 匠



64名が集まった東京での湖陵17期同期会

活躍する同窓生

釧路交響楽団の指揮を執った小川克也さん

(湖陵31期)



指揮者 小川克也
コンサートマスター 小川克也

6月28日、釧路市民文化会館で釧路交響楽団(桜井敬一団長・湖陵19期)の第18回サマーコンサートが開かれ、集まった市民は演奏に心を寄せました。

指揮者は浜中町立診療所の小川克也所長(湖陵31期)54歳。その経歴に注目すると実に興味深いものがあります。厚岸郡浜中町出身で、小学生時代に映画の音楽に憧れ、映画音楽からクラシック音楽に興味を持ち、ピアノ演奏や作曲・指揮を独学で取得。釧路湖陵高校に進学し、1年生の時に発足した釧路交響楽団にバイオリン奏者として入団しました。

北海道大学文学部に進学しましたが、途中で物理学を学ぶために東大に入学、卒業後は東京の予備校講師を勤めていました。

30歳で医師を志して東大医学部に再入学しました。医師不足の声がふるさとから届き、1999年に浜中診療所に赴任したことが縁で再び同楽団に入団しました。

サマーコンサートでは、多彩な映画にまつわる40曲をメドレーとして15分にまとめた「シネマ・ラプソディ」を作曲、編曲して初公演を果たしました。演奏と同時にステージ横の大幅面に懐かしい映画の名場面が映し出されました。

忙しい診療のかたわら、演奏会に備え週1回の練習に3時間かけて往復する熱意が見事に開花しました。小川さんの人生は、「学び、習い、教え、伝え、治し、共感する」というまるで蝶のように妖しく、見事に変身しています。

田巻 恒利(湖陵18期)



在京釧中・湖陵会健老会が解散

在京釧中・湖陵高健老会は、昨年10月25日に第86回例会を東京都内で開催し、解散することを決めました。同会の会報「友垣」の最終号になった57号に、最高顧問の遠藤

盛男さん(釧中26期)が、その経緯を綴っていますので、ご紹介いたします。

1968(昭和43)年、釧中の会員同士の親睦を深め、東京湖陵会の役員との交流の場として在京釧中会が発足しました。高齢化が進み、2006(平成18)年に「存続について今こそ手を打つべき」と同会の将来が、熱く議論され、翌年に在京釧中・湖陵高健老会へ移行しました。この時の会員は52人で、その後70人にまで増えました。

しかしながら会員の減少は止めることができませんでした。そして、とうとう解散することに決まりました。

遠藤さんをはじめ役員のみなさんは、『釧中』の名称をなんらかの形で残していくことに、尽力してきました。遠藤さんは「友垣」で、「釧中の名称存続強く希望されていた先輩諸兄も、冥土への旅立ちをなされました。その存命中に『釧中』の名を保つことは、先輩諸兄に対し、最も重い義務とも言えるものを果たしました」と述べています。

みなさま、ごくろうさまでした。

星 匠(湖陵30期)



だより

同窓生の皆さま、いかがお過ごしですか。「くまざさ」67号発刊に当たり、昨年から学校の様子を簡単にお伝えします。

＜8月＞

・統一学校説明会
本校体育館を会場にして、湖陵高校が参加を要請した道内外約70の大学・短大などが参加し、行われました。各大学のブースに積極的に足を運び熱心に質問する生徒の姿が見られました。昨年度は第12回目で、今年も8月末に第13回が予定されております。一つの高校が主催して、その高校が求める大学に参加してもらおう、このような説明会が定着している例は全道でも数少ないそうです。

＜9月＞

・新人戦・高文連
9月から3月にかけて、高体連の新人戦や高文連の大会が行われています。多くの部活動が全道大会に進出しました。

なかでも、弓道部女子は全道大会を制し、鹿児島市で行われた全国高等学校弓道選抜大会と千葉市で行われた東日本高等学校弓道大会に出場しました。

＜10月＞

・見学旅行
2学年の全6クラスが二班編成で出発しました。4泊5日の日程で、京都・奈良・東京方面へ行ってきました。

＜1月＞

・センター試験
試験当日は受験生徒の激励のため、朝早くから極寒の中、会場の北海道教育大学釧路校と釧路公立大学前に立つ、多くの先生方の姿が見られました。

＜3月＞

・第67回卒業式
240人の生徒が湖陵の誇りと夢を胸に、学窓を巣立ってゆきました。

・高校入試

理科数科1問口、普通科5問口の計6問口の募集です。

・大学合格発表

・教職員異動

近藤教頭を始め8名の教職員が異動・退職しました。転出された皆さん、湖陵高校のために力を尽くしていただきどうもありがとうございました。

＜4月＞

・教職員異動

小森教頭を始め8名の新任教職員を迎えました。

・平成27年度入学式

242名の新入生が夢と希望を

胸に入學しました。

・宿泊研修（1年生、川湯温泉第一ホテル忍冬）

・湖陵の日（4月25日）

P.T.A総会と授業公開・進路講演会・学級懇談を併せ、休日に行われております。また、夜にはキヤッスルホテルに会場を変え懇親会が開かれ、多くの父母と教職員が参加し盛大に開催されました。

＜5月＞

・教育実習（11名の卒業生を迎えました）

・高体連釧路支部予選

ほとんどの運動部が団体または

個人で全道大会に進んでいます。

文化系ですが放送局（VOK）もNHK杯の全道大会に進出してあります。

＜6月＞

・高体連全道大会

全道大会においては各クラブともよく健闘しました。その中で、陸上部は多数の選手が7月末に和歌山県で行われる高校総体に出場します。男子800mの白土君（3年）、女子400mの佐藤さん（2年）と女子4×100mチームと女子4×400mのチームです。

文化系では放送局（VOK）が

＜7月＞

・学校祭

湖陵祭伝統の行灯行列やクラス対抗歌合戦3年生による演劇と1・2年生によるクラス企画で大変盛り上がりしました。以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによりしくお願いします。

澁谷倫之（湖陵26期）

研究発表と海外研修報告
スーパー・サイエンス・ハイスクール

釧路湖陵高校は、将来の国際的な科学技術系人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する「スーパー・サイエンス・ハイスクール」の文科省指定を受けていますが、7月5日釧路市内で理数科3年生41人による研究発表会と海外研修報告会を開き、17グループが参加しました。

テーマは、「ヨーグルトが凝固しない条件」「エゾシカとダニ媒介感染症の関係について」「殻なし卵の発生」「アリの個体識別」など多彩で、研究成果を発表していました。学校では「このまま研究を続けて、さらに進化させてもらいたい」と期待していました。

星 匠（湖陵30期）

当番期だより

平成27年度の総会から、幹事期にちよつとした変化が起きます。校舎移転から四半世紀が過ぎ、ついに新校舎から巣立っていった同期生が中心幹事を務めるようになるのです。私たち43期は、高校3年の秋に緑ヶ岡校舎に移った学年です。

在校中に移転することは、昭和63年の入学当初から知らされていきました。カウントダウンが進むなか、古めかしい校舎への愛着は日ごとに増し、掃除の時間にはいつも、手抜き加減を迷ったものです。当時の学級数は1学年あたり10。2階の湖陵銀座のみならず、そこら中に生徒がごった返していた

て対応に備品も多く、移転が目前に迫ったころには机の運び出しなどに動員された記憶があります。

あのようなたたずまいの建造物はめつさり見かけなくなりました。が、先ごろ旅した香川県小豆島に偶然、富士見校舎の風情を見つけました。映画「二十四の瞳」のロケ地です。軋む廊下、窓ガラスのゆがみ、頑強な梁、何よりも建物に宿るにおいが、びっくりするほど湖陵でした。

ところで25年前の秋、私たちが在校生によるお別れ式も済み、いちどは施錠されたはずの校舎に、続々と大人たちが集まってきた日がありました。同窓会ホームページにある「大人の湖陵祭」だったのでしよう。はしゃぐ諸先輩の圧倒的な湖陵愛に少し気圧されなが

ら、さまざまな世代が思いを共有しているさまを不思議に思いました。釧中・釧路湖陵同窓会の伝統を肌身に感じた、初めての瞬間だったかもしれません。時の流れは平等で、私たちもすっかりいい大人になりました。あの日の先輩たちの年齢をも、もしかして追いついたでしょうか。

このたびの総会が皆さまにとつて例年どおり穏やかで意義深いひとときとなりますよう、幹事を精一杯務めます。そして明日には、ともに富士見校舎で育った44期に、確実にバトンを渡します。釧中・釧路湖陵同窓会のますますの発展と、釧路湖陵高校の一層の飛躍を心より祈りつつ。

岡本 匡代(湖陵43期)

今年も燃えた、湖陵祭

今年、湖陵祭は、7月17日から3日間開催されました。テーマは「卵殻！割ってこー！」。初

日の行灯行列は、午後6時30分に学校を出

発、北大通を行進するところには、とつぷりと日が暮れて行灯の光が輝きを増しました。

この日の釧路市内の最高気温は20度。夜になっても湖陵生の熱気は冷めることなく、最後は花火となって夜空を焦がしていました。

星 匠(湖陵30期)
須貝 喜治(湖陵49期)

編集後記

私事ながら、帰郷15年、後期高齢を目前に社会のこれといった役に立たず生息している。湖陵同窓会と港まつりの音楽パレードは、毎夏の楽しみになっている。同窓会には社会人(会社人でもある)の時はおっくうだったけれど、リタイヤしてみると、利害関係抜きのゆるい人間関係が魅力でもある▼故郷では12期の仲間が、故榎本隆

のスナック「ブックエンド」で三水会という月例の呑み会を続けている。幼稚園長の種市徹、保険代理業の山本宏、スポーツアウトレット前支店長の杉山究、日本画の羽生輝、家具店経営の片山要、商社マンの橋武、道議を3期つとめた西田昭紘、神主夫人の荒井洋子らが常連で、1月には温泉旅館で新年会といった具合だ。こうした

アットホームの雰囲気を持つのは、榎本未亡人和田子さんの人柄にもよっている▼そんな左党ぞろいの仲間に、ノンアルコールの小学生が加わって「呑めや歌えや」に取り込まれてしまうのだから不思議なものだ▼このところ、くまざさは、奥田達也さんの引退、増子正

樹さんの急死といった具合に予想外のハプニングに見舞われた。事務局は、その欠員補充の話を生に求めてきた。再三固辞したものの、事務局の熱意に打ち負かされ、12期の輝かしい盟友たちの名譽のために、「老骨にムチ打って」引き受けた。くまざさの愛読者の皆さん、くまざさの現編集委員の方々どうぞよろしく。

堀川 春昭(湖陵12期)

釧路湖陵高校

〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryuohp.inoseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 川端紀一(湖陵11期)
- 編集委員 堀川春昭(湖陵12期)
- 編集委員 澁谷倫之(湖陵26期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-0014
釧路市末広町2丁目4番地
TEL0154 (23) 0241
手動代替FAX 0154 (23) 0242



佐藤、星、西村、須貝、澁谷、川端、堀川、田巻 (左から)